

犬とキャッチボール



私が小さいころ、家には雄のダックスフント、つつ君がいました。私は学校から走って帰ってくるほど、大好きでした。彼は一家の中心的存在で、16歳まで長生きしたのです。

でも家族はそれまで、室内で犬と暮らした経験がなく、つつ君との生活は大変でした。じゅうたんにおしっこをされ、張り替えを余儀なくされたり、むやみにほえるのに苦労したり、手をかまれて病院に行ったり…。一通りの「問題行動」に悩まされたものです。

「みんな、こんなに苦労して犬と生活しているのかな? もっと理想的な犬と暮らし方があるのでは?」そんな疑問がきっかけで、私は動物について勉強する道に進みました。

そして犬と生活する上で「トレーニング」の大切さを知りました。

彼への罪滅ぼしに

つつ君ごめんね

トレーニングは大きく三つに分類できます。まず「心や攻撃性を抱かないよう」な性格に育てること。三つ目は、オスワリやマテなど基本的な指示を理解させることです。

家の中で過ごすマナーを身に付けさせること。次に人や他の犬、物音などに恐怖を感じさせないこと。三つに共通して重要なことは、犬ができた時に「褒める」こと。できなかったら「しかる」割合は、褒める回数の100分の1でも多いくらいです。褒めることで、犬はどんどん人を信頼するようになりますが、しかる回数が増えると、人を怖がりたり攻撃したりするようになります。

（辻村愛・ドッグトレーナー）



つつ君は、やんちゃだけど少し怖がりでした(子どものころの筆者と)

私も家族はそれまで、室内で犬と暮らした経験がなく、つつ君との生活は大変でした。じゅうたんにおしっこをされ、張り替えを余儀なくされたり、むやみにほえるのに苦労したり、手をかまれて病院に行ったり…。一通りの「問題行動」に悩まされたものです。